

中国語・韓国語翻訳用邦文案

神事舞「奉幣之舞」

神楽演目には大きく二つの要素があります。儀礼的な、あるいは祈祷的な内容を持つ演目があります。それから、演劇的な娯楽的な内容を持つ演目があります。相模地方（神奈川県）の神楽には、御神前之舞（ごしんぜんのまい）という祈祷的な、呪術的な、神事的な、儀礼的な演目が伝わっています。七座（七演目）が伝わっています。奉幣之舞、榊之舞、劍之舞、末広之舞、弓之舞、竿之舞、相生之舞の七座（七つの演目）が伝わっています。

御神前之舞は、神社の祭礼儀礼（神事儀礼）の中で演じられます。したがって、厳粛な雰囲気の中で、演じられます。静かに演じられます。一般の方々が見る前で演じられることはほとんどありません。

七座（七演目）ありますが、一度に七座を演ずることはありません。通常は、三座（三演目）が演じられます。必ず、奉幣之舞は演じられます。奉幣之舞は、もっとも代表的な舞です。

奉幣之舞は天下泰平、国土泰平、地域社会の泰平を祈願する舞です。演者自身が自ら、お祓いをして、穢れを取り除きます。それから四方世界をお祓いして、穢れを取り除き泰平を願います。

神楽鈴を持ち、同時に採り物（とりもの）と呼ばれる呪具を持って舞います。採り物が弓の場合は、山の幸（つまり、狩猟）を祈願します。採り物が竿の場合は海の幸（つまり、漁獲）を祈願します。

加えて、御神前之舞は神楽面を着けず、素面（あるいは直面）で舞います。神楽の原点のような演目です。時々、この神楽を見ると眠る人がいます。眠っている人を見たら、神様が乗移ったと理解してください。